

ケイリンサイシン日本に産す

著者	初島 住彦
著者別表示	Hatsushima Sumihiko
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	41
号	2
ページ	69-70
発行年	1993-12-25
URL	http://doi.org/10.24517/00055674



および1993年春金沢と松本で行った。ハナノキ雌親の場合も雄親の場合も、交雑の結果、多かれ少かれ成熟果実を得ることができた。得られた成熟果実を直播および低温処理後播種したところ、前者では翌春、後者では直ちにかなりのともに高率で発芽した。試みに数個の芽生えとそれらの両親個体の葉から全DNAを抽出し、RAPD法を実施したところ、2種の

プライマーで両親に特異的なDNA断片が検出された。芽生え個体では、これら両親のDNA断片を共有することが分った。これは、雑種形成の分子の根拠に外ならない。なお、雑種の芽生えは、とくに子葉の大きさにおいてすぐれ、雑種強勢が認められた。
(received June 14, 1993: accepted Oct. 12, 1993)

○伊那谷自然教育研究会 中央アルプスと伊那谷の自然 A 5判, 228頁。1993年9月9日発行, 信濃毎日新聞社。定価2,600円。

信濃毎日新聞社では、郷土の自然を広く一般に紹介する目的で、地域ごとの自然解説書“自然シリーズ”を発行している。著者は地元で詳しい研究者および自然愛好者である。本書はこのシリーズの5冊目で広く伊那谷の自然を扱ったもので、I. 自然を形づくるもの、II. 植物の生活、III. 動物の生活、IV. 天竜川の生物の5章からなる。植物に直接関係するのは、Iの第5節生物地理学からみた伊那谷とIIである。前者では、ハイマツ帯やシラビソ帯では、日本海型分布の植物が大部分を占め、ブナ帯では太平洋型分布が多くなり、クリ帯やカシ帯では大部分が太平洋型分布の植物となるという興味深い事実を指摘している。また、後者では各植生帯ごとに、植生のようなすや主な構成種を写真とともに解説してあるばかりでなく、気候や地形などの立地条件と関連させながらその成立要因を説明する努力がなされていることが特筆に価する。(清水建美)

○第17回全国育樹祭三重県実行委員会 郷土の樹木—三重県の樹木誌— B 5判, 107頁。平成5年10月発行。非売品。

本書は本年「うるおいとやさしさを伝える 豊かな緑」を大会テーマに行なわれた、第17回全国育樹祭を契機に、先人たちが堂々と築きあげ、今も人々に深いかわりを持ちながら成長する、貴重な樹木の姿を広く県内外に紹介し、人々の緑への関心をさらに高めることを目的に刊行したという。

書名は「郷土の樹木—三重県の樹木誌—」となっているが、内容は長年の風雪に耐え、地域住民と親しんで来た三重県内の巨樹・巨木林を紹介したもので、選ばれた101件を、笠井道男氏撮影のカラー写真に、武田明正氏が、解説文を執筆している。

選定された101件を、天然記念物指定から見ると、国7件(三多気の桜、東阿倉川のマメナシ、西阿倉川のアイナシ、白子の不断桜、椋本の大椋、果号寺のシブナシガヤ、野村の一里塚のムクノキ<史跡>)、県25件、市9件、町4件、村2件、計47件である。また樹種から見ると、55種で2件以上の種はスギ・カヤ各8件、ヒガンザクラ・クスノキ各6件、クロマツ・スダジイ各4件、イブキ・コウヨウザン・イチヨウ・タブノキ・エノキ各2件である。(里見信生)

○初島住彦*: ケイリンサイシン日本に産す Sumihiko HATUSIMA*: *Asarum heterotropoides* var. *mandshuricum* Newly Found in Japan

今年5月(1993年)上旬に熊本県阿蘇郡波野村の植物研究家^{フル}義文氏から変わったサイシンの一種を発見したので鑑定してほしいとの依頼があり、生品3株が筆者の所に送ってきたので調べたところ、従来朝鮮、満州に知られていたケイリンサイシンであることがわかった。ケイリンサイシンは樺太、千島からわが国の東北地方に分布するミチノクサイシンの変種で、母種とは萼裂片が鋭頭、葉は心状腎形でなく卵心形で、全株無毛なる点で区別されている。萼筒部が扁円形で裂片が著しく反曲して萼筒に密着する点ではフタバアオイにも似ているが、根茎は長く横走せず、全株無毛で、葉は大きく幅7cmに達し、葉柄は長さ15cmにもなり、花梗も長さ7cmに達し、花柱は離生、萼片は下半部がゆ合している点で区別できる。ウスバサイシンとは萼裂片は卵形でなく、広卵形又は卵状腎形で、上方は開出せず著しく反曲する点と、葉が鋭尖頭でなく鋭頭になる点で区別できる。齋氏によると本変種は阿蘇の原野の5ヶ所に多数自生しているという。本変種は朝鮮では済州島、梅加島、寇島、全南、慶南、江原の諸道、満州では黒龍江、吉林、遼寧の諸省に知られている。ケイリンなる名前は韓国の古都慶州の別名鷄林にもとづき故前川博士が命名したものである。本変種の発見報道後、熊本工業大学の浜田善利氏から便りがあり、同氏は1979年既に本変種を阿蘇の原野で発見され1981年に現地でスライドに撮影していたが詳しく追求しないままであったという。その後深葉でも発見し、同氏が送った阿蘇のものは東京理科大学の葉草園に栽培されているという。阿蘇には満鮮系の植物が多数知られているが今回の発見で更に一種加えたことになる。最後に筆者の依頼により阿蘇産の本変種の花の解剖図を描いて下さったカンアオイの研究者山幡英示氏に感謝の意を表したい。

Asarum heterotropoides FR. SCHMIDT var. *mandshuricum* (MAXIM.) KITAGAWA, Lineam. Fl. Mansh. (1939) 174; 中国高等植物図鑑 (1972) 543, f. 1086; Fl. Liaoningica I (遼寧植物誌上編) (1985) 573, f. 242, 1-2; 中国植物誌 24 (1988) 177.

Asarum sieboldii MIQ. var. *mandshuricum* MAXIM. in Mém. Biol. 8 (1899) 399, in nota.

Asiasarum heterotropoides (Fr. SCHMIDT) F. MAEK. var. *mandshuricum* (MAXIM.) F. MAEK. in NAKAI, Fl. Sylv. Korea. 21 (1936) 18.

Hab. Aso, Pref. Kumamoto, Kyusyu, Y. TSURU, May 10, 1993.

Distr. Korea and Manshuria.

New to the flora of Japan!

(* 〒 892 鹿児島市吉野町 2635-3 Yoshino-cho 2635-3, Kagoshima city 892, Japan)

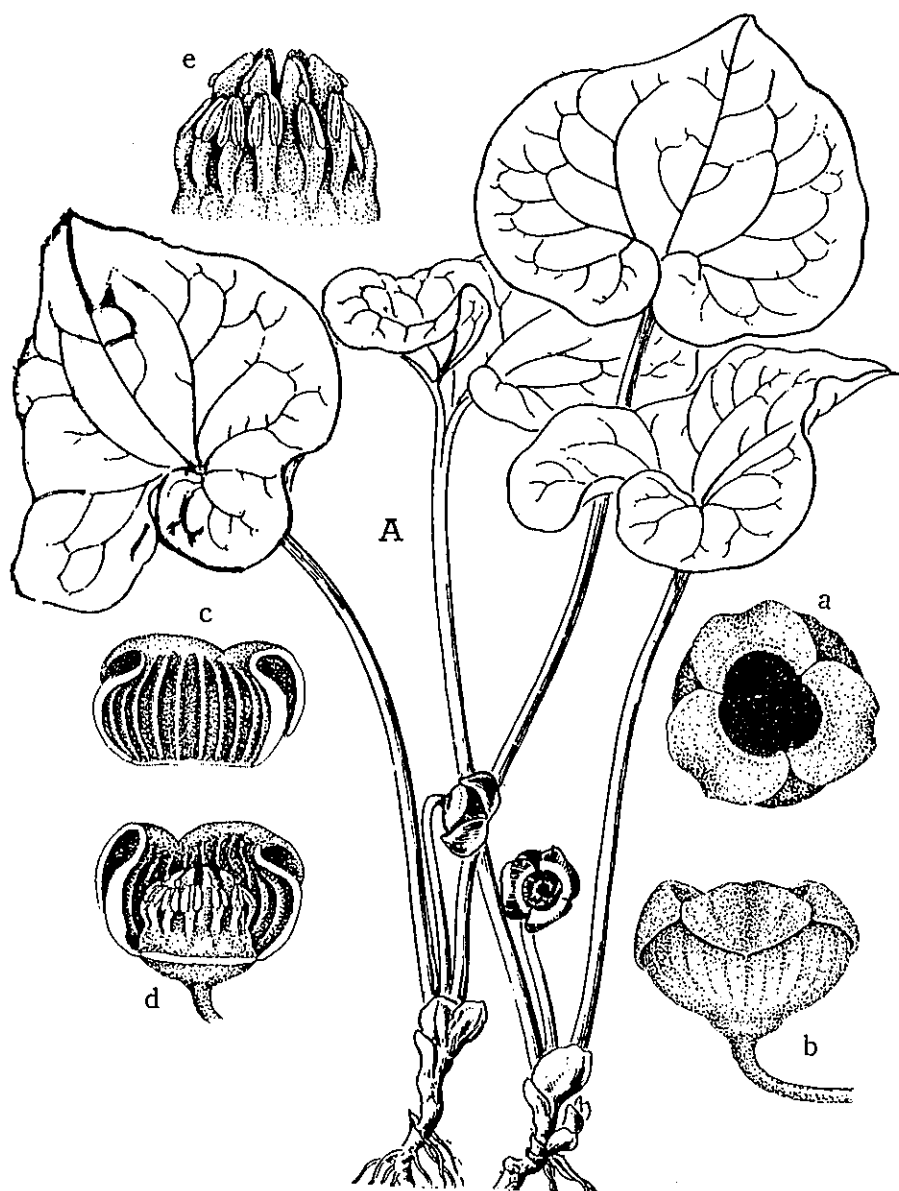


FIG. 1. *Asarum heterotropoides* var. *mandshuricum*: A. habit of flowering plant from Manshuria (from Flora Liaoningica 1), a~e. external and inner views of flower form Aso, Kyusyu. a~d : $\times 2$, e : $\times 4$.